

## 凡 例

本データベースには、『研究通信』の1953年4月発行の創刊号から2001年1月発行の200号までの全頁の画像データが収められている。全ての号を通して見られる画像と、検索可能なように記事の見出し毎に分割した画像とが掲載されている。

記事の見出しは総数2485タイトルにおよび、「号別目次」で発行年月順に一覧になっている。そして、これらの記事は、見出しを元にして作られた「用語索引」「人名索引」「内容索引」から検索できるようになっている。

「用語索引」では、見出しに含まれる村落研究に特徴的な用語が五十音順に並んでいて、所定の用語が見出しに含まれる記事を検索できる。

「人名索引」では、主として記事の執筆者名および見出しに含まれる人名が五十音順に並んでいて、所定の人名に関わる記事を検索できる。

また、『研究通信』は機関紙という性格から、研究会の運営に関わる事務的な記事も多い。事務的な記事には「用語索引」にかからないものもあるため、全ての記事の内容を種類別に見られる「内容索引」も用意されている。

### 1. 号別目次 [発行年月順]

この号別目次では、『研究通信』の記事の見出しが発行年毎にまとまって号順に並んでいる。しかし、もともと号数が誤っているものや、別刷の号外もあり、発行年月からも検索できるように工夫されている。

### 2. 用語索引 [五十音順]

用語索引の作成にあたっては、それぞれの記事の見出し(タイトルとサブタイトル)から、村落研究に特徴的な用語および事例地の地名が抽出された。また、研究会開催案内の記事では、見出しに加え、研究会の報告タイトルやサブタイトルから抽出された用語や地名もある。

創刊号から200号までの編集方針は一貫しておらず、記事の見出しの付け方は様ではない。細かく見出しが付いている号もあれば、大きな括りの見出しになっている号もある。記事の内容を要約した見出しもあれば、記事の種類を機械的に分類した見出しもある。一つの記事の見出しから最大で11の用語(地名を含む)が抽出されたものがある一方、大きな括りの見出しや、記事の種類を機械的に分類した見出しでは、用語索引にかからない記事もある。さらに、研究会の運営に関する事務的な記事では、見出しに用語や地名が含まれず、用語検索にかからない記事もある。

また、ここで検索にかかる用語は、村落研究に特徴的な用語と事例地の地名に限定されている。学術用語でも、例えば、知識、事実、理論、検証、分析、比較、実践、変化、維持、個人、人間、行動など、村落研究に特定されない用語については、精査の上、省ける

ものは除外されている。ただし、合成語になって村落研究に特徴的な用語になったものは掲載されている。

用語と地名の表記は、原則として『研究通信』に記載された表記にしたがっている。したがって地名では、都道府県名のみ、都道府県名と郡市町村名、市町村名のみ、地域名のみ、いずれの場合もある。ただし、市町村名のみの場合で、必要があるものには都道府県名が付されている。

また、欧文表記のものは、単語ないしはアルファベットの発音表記にしたがって並んでいる。

### 3．人名索引 [五十音順]

記事の執筆者、見出しに載っている人名、研究会開催案内については報告者、文献紹介の記事については文献の執筆者が人名索引に掲載されている。ただし、例えば有賀喜左衛門研究のような場合は、用語索引に掲載されている。

『研究通信』で人名に誤りがあった場合、正しい表記に直している。

旧字体と新字体と二通りの表記がある人名については、頻出する表記になっている。

外国人は最後に一括して掲載されている。東洋人は姓名の順で、欧米人は名姓の順で表記されている。

旧姓を併用している場合は、いずれの表記からも記事検索できるようになっている。

### 4．内容索引 [種類別]

内容索引は、記事の内容から、記事を次の17種類に分けている。「大会」「共通課題」「研究会」「出版」「設立・周年記念」「表彰」「文献紹介」「学术交流」「組織運営」「規則」「会員」「会費」「会計」「通信」「諸連絡」「編集後記」「その他寄稿」。それぞれの種類の中は、必要に応じてさらに細目に分けられている。細目の作り方は、それぞれの種類の特徴によっている。

1つの記事の見出しが複数の種類の内容を含む場合、それぞれの種類から検索できるようになっている。例えば、「第24回大会の共通課題について」という見出しは、「大会」からも「共通課題」からも検索できるようになっている。

ただし、[組織運営]の細目にある委員会については数が多いため、委員会の内容が見える具体的な細目名をつけ、極力、再掲を避けている。例えば、[委員会/課題委員会]であれば[共通課題]にも、また、[委員会/年報編集委員会]であれば[出版]にも関わる内容だが、[共通課題]や[出版]からは検索できないので注意する必要がある。

利用者の視点によって、記事内容の類別方法は異なる。この内容索引での類別は、一つの参考として活用されたい。